

平成 27 年度 保健師活動指針推進特別委員会事業報告

1. 活動テーマ

統括保健師が現在果たしている役割や課題を明らかにし統括保健師の配置を促進する。併せて保健師活動指針策定を推進する。

2. 目的

- ①統括保健師の配置状況・機能・配置に至る背景等の分析を行い統括保健師の配置を促進する。
- ②自治体における人材育成に関する取組事例の収集を行い、保健師としての専門能力の獲得やキャリア形成について明らかにする。
- ③保健師活動指針を策定した自治体の策定プロセスを明らかにし、策定に必要な手引きを作成する。

3. 実施状況

回	時 期	場 所	内 容
1	H27年5月31日	さいたま市 レンタルスペースホリ イ	参加者：メンバー・保健指導室 内容：①活動方針の策定 ②統括保健師の配置に関する調査実施 計画について検討③情報交換
2	H27年6月14日	同上	参加者：メンバー 内容：①統括保健師に関する調査につい て②自治体における人材育成に関する 取組事例の収集について
3	H27年7月4日	同上	同上
4	H27年8月		統括保健師へのインタビューの実施
5	H27年9月6日	さいたま市 レンタルスペースホリ イ	参加者：メンバー・保健指導室 内容：①2次調査結果について考察 ②活動指針策定した自治体へのインタ ビュー結果のまとめ
6	H27年12月12日	同上	参加者：メンバー 内容：平成27年度活動のまとめ 報告書の検討

4. 結果・課題

目的の①と②については、厚生労働省保健指導室の「地域における保健師の保健活動に関する指針」の活用状況における情報収集データから、111自治体を抽出し2次調査(質問紙調査)及び3次調査(インタビュー調査)を実施した。

調査の結果、統括保健師の事務分掌上の位置づけがあり保健師活動指針を策定している自治体数は7市町のみであった。統括保健師として果たしている役割は、保健師の人材育成、分散配置されている保健師への助言、庁内保健師連絡会議の実施とする回答が多い。課題としては業務量が多く本来の役割や機能が十分発揮できていない。保健師間の考えが多様化して同一方向で仕事に向かうことが困難等の回答があった。統括保健師の配置を促進するとともに統括保健師を補佐する体制づくりが重要である。また、統括保健師のキャリア形成では、経験した部署の平均は4.6部署となっていた。「ジョブローテーションが少ない者にとっては統括保健師としての役割を十分に果たせない」との回答もあり、ジョブローテーションにより組織内の複数の部署を経験することが、保健師活動について客観的、俯瞰的に見ることに繋がり、視野を広げることができ、保健師として専門的能力の獲得に有効に機能すると考えられた。

3次調査のインタビューからは、保健師活動指針の策定のプロセスは自治体における保健師活動の可視化を図るとともに、PDCAに沿った活動の再確認や地域の課題の優先順位を共有する機会となっており、策定を成し遂げた自治体は結束力の高まりがみられている。
目的の③については、今年度、保健師活動指針の策定取り組んでいる埼玉県松伏町と千葉県千葉市の取組状況について全国保健師長会のホームページに掲載した。

5. 委員

- 加藤 静子 埼玉県熊谷保健所
- 藤原 啓子 横浜市神奈川区福祉保健センター
- 金子 恵子 千葉県印旛健康福祉センター
- 守屋 希伊子 埼玉県三郷市福祉部福祉総合支援課
- 大竹 美紀 茨城県保健福祉部保健予防課